

東北マリンサイエンスの観測データ管理・公開状況とデータベースの構築

佐々木朋樹(海洋研究開発機構)

1. はじめに

東北マリンサイエンス拠点形成事業（以下 TEAMS という）は、東北大学、東京大学大気海洋研究所、海洋研究開発機構が中心となり、東日本大震災で大きく変化した東北沿岸域の海洋生態系の調査研究を通して、被害を受けた東北沿岸の漁業復興に貢献するため、2011 年度より実施している事業である。

本事業では、効果的に漁業復興に貢献するため、得られた観測データや研究成果を統合的に管理し、プロジェクト内部で迅速に共有するとともに、利用しやすい形で広く外部公開することも重要な課題として位置付けられている。

2. 取り組み

TEAMS では、調査で取得された観測データを統合的に管理しており、地元への情報提供機能、ならびに事業推進のための情報共有機能を有した各種システムの構築、運用を行っている。

事業で取得された観測データは、TEAMS データ案内所「リアス」から外部公開されている。このサイトは、事業で取得された観測データを迅速に、そして網羅的に公開することを主な目的としたサイトで、実施された調査観測ごとにデータをまとめて公開している（図 1）。各データにはデータの種類や調査地域、期間等の情報が付与されており、絞り込み検索が可能となっている。ただし、風評被害や乱獲の恐れがあり、慎重な取り扱いが求められるデータに関しては、適切な公開制限を行っている。

幅広い利用が見込まれる水温や塩分、溶存酸素等の環境データについては、ある程度まとまったデータ量となったため、使いやすい形でデ

ータのダウンロードが可能な「TEAMS 調査海域環境データベース」としてデータベース化を行った。「リアス」が迅速性、網羅性に重点置いたサイトであるのに対して、こちらはデータファイルの扱いやすさに重点を置いたサイトで、複数の調査観測で取得されたデータを単一のファイルでダウンロードすることが可能となっている（図 2）。ダウンロードできるファイルについても、フォーマットやデータの単位が統一されており、関連するメタデータや引用表記リストも併せてダウンロードすることが可能となっている。今後、公開データ種の拡大やダウンロードフォーマットの追加を実施する予定である。

さらに、調査で撮影された動画や写真データについても集約・配信するサイトとして「TEAMS 動画・写真ライブラリー」を公開している（図 3）。動画や写真は、撮影対象や撮影地域等の情報が付与されており、これらの条件で検索可能となっている。地元への事業 PR や海洋環境への理解増進のため、特に魅力的な動画を集めた「TEAMS 動画ギャラリー」も併せて公開している（図 4）。

3. まとめ

TEAMS では、地元への情報提供ならびに事業の推進を目的として、得られたデータを統合的に管理し、プロジェクト内外への公開を行うための各種システムを構築、運用している。

事業終了後のデータ利用の継続性確保のためのデータやシステムの取り扱いをどうしていくかが今後の大きな課題であり、TEAMS 全体としての最終的な成果のアーカイブと活用の検討と併せて検討を進めていく必要がある。



図 1. TEAMS データ案内所「リアス」
<http://www.i-teams.jp/riass/>



図 3. TEAMS 動画・写真ライブラリー
<http://www.i-teams.jp/viaphol/j/>



図 2. TEAMS 調査海域環境データベース
<http://www.i-teams.jp/ebis/>

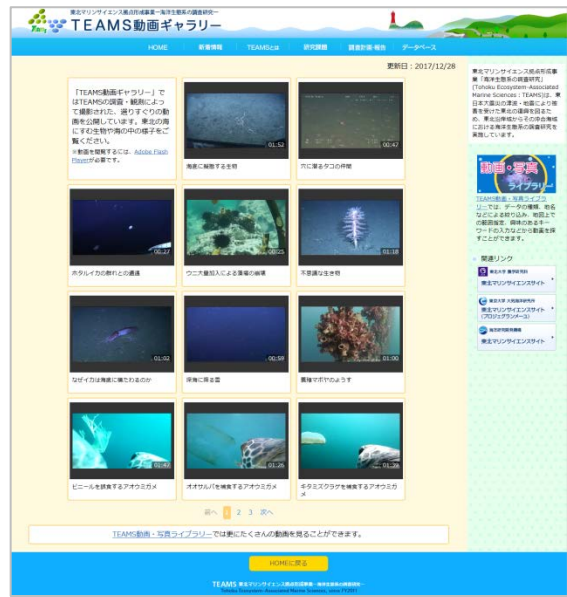


図 4. TEAMS 動画ギャラリー
<http://www.i-teams.jp/gallery/j/>